

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 商業販売統計、家計調査(2012年3月)

発表日2012年4月27日(金)

～消費は堅調に推移～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 主席エコノミスト 新家 義貴

T E L : 03-5221-4528

(単位: %)

		商業販売額										コンビニ販売額	
		卸売業		小売業		大型小売店		百貨店	スーパー				
								前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比
11	1月	3.3	4.0	4.6	3.7	0.1	3.6	1.5	▲ 0.7	▲ 1.1	▲ 0.5	7.1	4.5
	2月	5.3	0.8	7.2	1.1	0.1	2.1	3.2	0.5	0.6	0.5	8.5	5.9
	3月	▲ 1.3	▲ 9.3	1.2	▲ 9.1	▲ 8.3	▲ 8.1	▲ 4.5	▲ 7.4	▲ 15.0	▲ 2.9	9.1	7.2
	4月	▲ 2.6	3.6	▲ 1.7	3.1	▲ 4.8	3.6	1.1	▲ 1.9	▲ 1.8	▲ 1.9	3.0	1.0
	5月	1.3	0.7	2.3	0.0	▲ 1.3	2.9	0.8	▲ 2.5	▲ 2.6	▲ 2.4	7.3	5.1
	6月	3.1	1.4	3.8	1.3	1.2	2.5	2.5	▲ 0.5	0.1	▲ 0.8	10.9	8.3
	7月	2.3	▲ 0.2	3.0	▲ 0.2	0.6	▲ 1.2	1.8	0.8	▲ 0.4	1.5	11.4	8.9
	8月	3.1	▲ 0.9	5.2	▲ 0.6	▲ 2.6	▲ 0.7	▲ 1.8	▲ 2.6	▲ 2.1	▲ 2.9	9.1	6.6
	9月	0.3	▲ 1.5	0.8	▲ 1.9	▲ 1.1	▲ 1.3	▲ 2.4	▲ 3.6	▲ 2.8	▲ 4.0	▲ 1.8	▲ 4.1
	10月	1.1	0.7	0.8	0.4	1.9	0.7	▲ 0.5	▲ 1.4	▲ 0.8	▲ 1.7	16.4	13.5
	11月	▲ 2.3	▲ 0.9	▲ 2.4	▲ 0.5	▲ 2.2	▲ 1.3	▲ 1.6	▲ 2.5	▲ 2.2	▲ 2.7	10.5	7.3
	12月	▲ 0.8	1.8	▲ 2.0	1.7	2.5	0.7	0.6	▲ 0.3	0.7	▲ 0.9	7.4	4.0
12	1月	▲ 2.0	2.1	▲ 3.5	1.2	1.8	3.1	▲ 0.1	▲ 1.2	▲ 1.2	▲ 1.2	4.9	1.6
	2月	▲ 0.1	1.3	▲ 1.3	2.2	3.4	2.0	1.3	0.2	▲ 0.5	0.6	8.8	4.4
	3月	3.0	▲ 4.3	0.5	▲ 4.8	10.3	▲ 1.2	6.0	5.0	14.2	0.5	4.4	0.3

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

(%)

		実質消費支出 (二人以上世帯)				実質可処分所得 (勤労者世帯)		消費性向 (勤労者世帯)	
		合計		除く住居等 (※)		(勤労者世帯)		(勤労者世帯)	
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	季調値	前期比
11	1月	▲ 0.3	0.9	▲ 0.5	▲ 0.2	▲ 2.7	▲ 0.7	75.9	1.6
	2月	0.5	▲ 0.8	0.2	0.4	2.1	4.1	72.3	▲ 3.6
	3月	▲ 8.2	▲ 3.1	▲ 7.2	▲ 3.5	▲ 3.0	▲ 4.7	72.4	0.1
	4月	▲ 2.0	0.8	▲ 2.0	0.4	▲ 1.8	1.8	72.1	▲ 0.3
	5月	▲ 1.2	▲ 0.4	▲ 1.1	0.5	▲ 2.9	▲ 1.6	73.4	1.3
	6月	▲ 3.5	0.5	▲ 2.8	0.5	▲ 5.9	1.1	72.6	▲ 0.8
	7月	▲ 2.1	0.9	▲ 1.0	1.4	1.1	2.2	71.9	▲ 0.7
	8月	▲ 4.1	▲ 0.2	▲ 4.0	▲ 1.9	▲ 1.9	▲ 2.1	74.0	2.1
	9月	▲ 1.9	0.8	▲ 1.6	1.5	▲ 1.4	1.2	74.1	0.1
	10月	▲ 0.4	0.3	▲ 1.7	▲ 0.2	▲ 3.8	2.3	72.7	▲ 1.4
	11月	▲ 3.2	▲ 0.4	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 1.2	▲ 2.8	74.1	1.4
	12月	0.5	▲ 0.1	0.3	0.2	▲ 1.0	▲ 1.2	74.5	0.4
12	1月	▲ 2.3	▲ 0.1	1.3	0.9	1.3	1.2	73.7	▲ 0.8
	2月	2.3	1.8	2.3	1.5	1.8	4.7	72.3	▲ 1.4
	3月	3.4	▲ 0.1	3.3	▲ 0.5	3.7	▲ 2.7	72.9	0.6

(出所) 総務省「家計調査報告」

※「住居」、「自動車購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている

○ 3月単月では減少も、1-3月では高い伸び

経済産業省から公表された3月の小売業販売額は前年比+10.3%となり、ほぼ市場予想(+10.0%、弊社予想: +11.8%)通りの結果だった。昨年の大震災による落ち込みの反動が出ているため、前年比で非常に高い伸びになったが、前月比では▲1.2%と小幅減少している。3月は気温の低下により春物衣料の動きが悪かったほか、週末に悪天候が続いたことなどが客足を鈍らせており、百貨店を含む各種商品小売業などが

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

前月対比悪化した。もっとも、3月の減少は1月（前月比+3.1%）、2月（同2.0%）に高い伸びだった反動の面が大きく、1-3月期では前期比+4.1%とかなり好調だ。特に伸びたのが自動車であり、エコカー補助金効果などから自動車小売業は前期比+12.8%も増加した。また、自動車以外も比較的好調で、各種商品小売業が前期比+0.9%、織物・衣服・身の回り品小売業が同+2.6%、飲食良品小売業が同+3.1%、機械器具小売業が同+6.7%と、全般的に増加している。

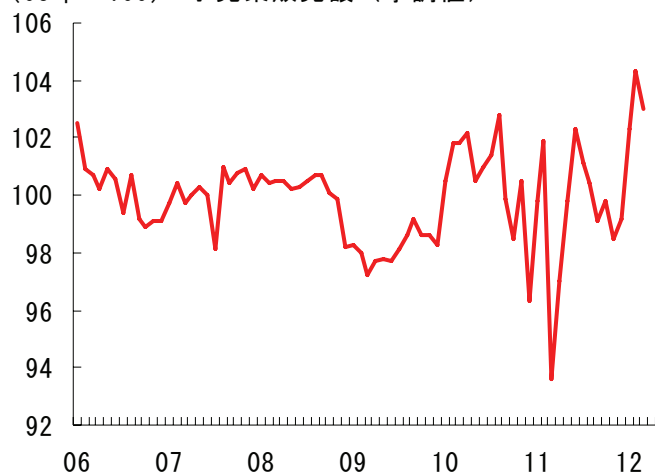
また、総務省から公表された3月の家計調査実質消費支出（二人以上世帯）は前年比+3.4%となり、こちらも概ね市場予想（+4.0%、弊社予想：+3.8%）通りの結果だった。前月比では▲0.1%とほぼ横ばいであり、2月に同+1.8%と伸びた後にしては底堅い。また、消費の基調を見る上でより重要な「除く住居等」は前月比▲0.5%だったが、これも1月（前月比+0.9%）、2月（同+1.5%）と増加したことの反動の面が大きい。1-3月期で見ると、実質消費支出が前期比+0.9%、「除く住居」では同+1.7%とそれぞれ高い伸びである。

○ 足元は予想以上に堅調も、先行きには懸念

このように、小売業販売額、家計調査とも3月単月では小幅減となったが、1-3月期で見ると大幅に増加しており、足元の消費の堅調さが窺われる結果だった。エコカー補助金の効果に加え、消費者マインドが持ち直していることなどが寄与しているとみられる。5月17日に公表される1-3月期GDPにおいても、個人消費は高い伸びになることが予想される（前期比+1.1%を予想）。

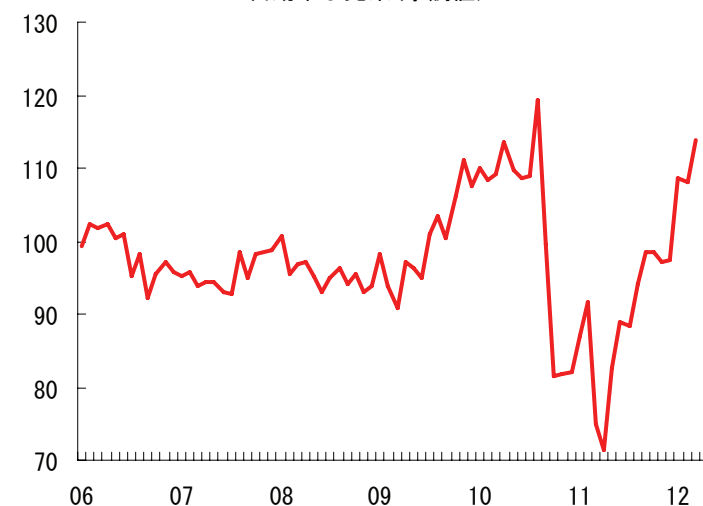
ただし、足元では雇用の改善ペースが極めて鈍いことに加え、民間企業、公務員とも夏のボーナスの減少が見込まれるなど、家計の所得環境は厳しいままである。消費の基盤となる所得環境に目立った改善がみられないなか、個人消費が足元の堅調さを維持することは難しいのではないだろうか。足元の消費改善ペースは予想以上だが、先行きの改善の持続性については懸念が残る。

(05年=100) 小売業販売額 (季調値)

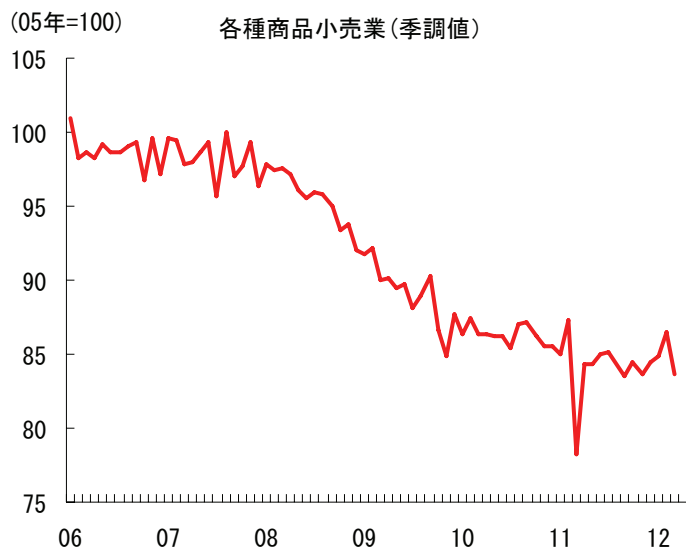


(05年=100)

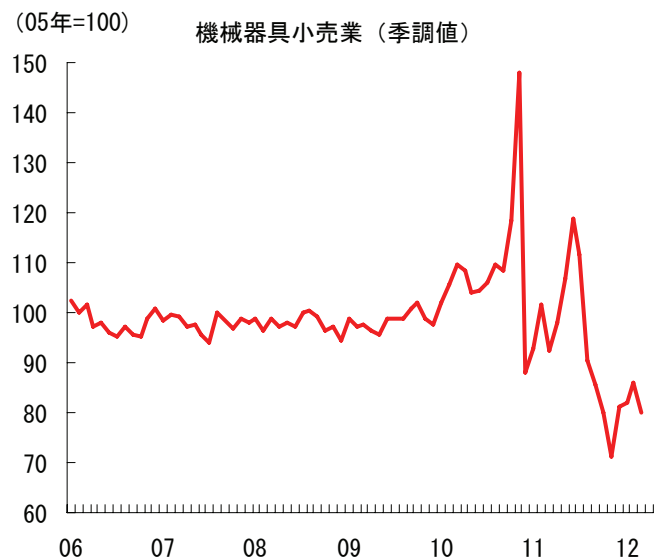
自動車小売業 (季調値)



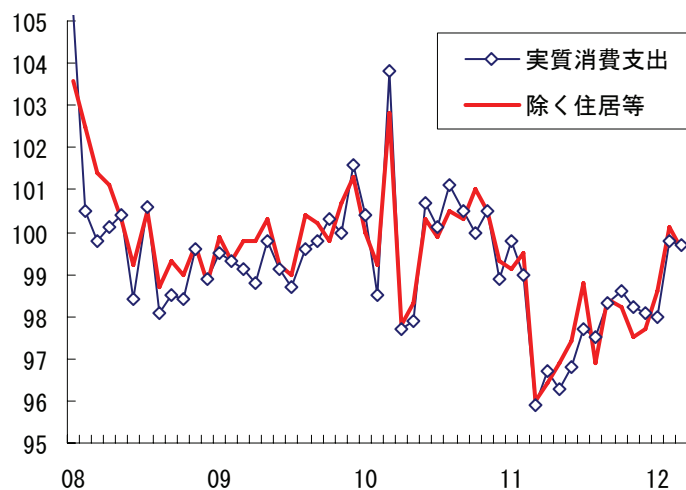
(出所) 経済産業省「商業販売統計」



(出所) 経済産業省「商業販売統計」



家計調査・実質消費支出 (季節調整値)



(出所) 総務省統計局「家計調査報告」